

Sakae Fuji Gas Torch SCT-530

この取扱説明書は大切に保管をしてください。

本製品は「火」を扱う製品です。取扱いを間違えますと、やけど、火災等の危害を及ぼす恐れがあります。取扱説明書の注意事項をよくお読みいただいてからご使用ください。

絵表示について次のような意味があります。

- 警告** 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの
- 注意** 誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・財産などの損害に結びつくもの
- 一般的な注意
- 一般的な禁止
- 必ず行う

使用方法と保管について

警告

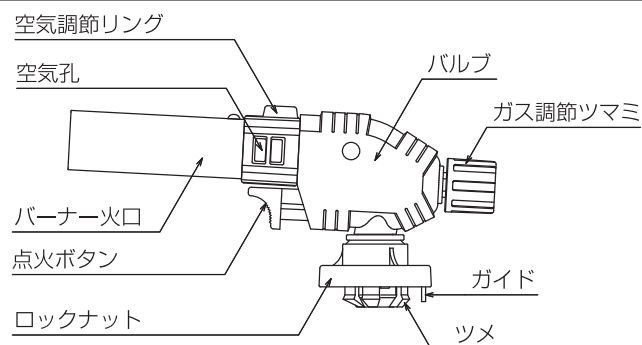
- Oリング等の消耗品(ゴム製)は経年により劣化します。(Oリングは製品内部にも使用しています)劣化するとガス漏れの恐れがあります。ご使用前にガス漏れを確認し、漏れている場合は危険ですのでご使用しないでください。
- 落下または強い衝撃が加わった場合には使用を中止し、ガス調節ツマミの曲がり(回すと振れる)などの異常が無いか確認し、異常がある場合は使用しないでください。
- 炎の中に火口を入れしないでください。故障、またはガス漏れ事故の原因となります。
- やけどや火災の原因になりますので下記の取扱いを守ってください。
 - ・点火時及び使用中にバーナー火口をのぞき込んだり、バーナー火口を人に向けたりしない
 - ・使用の際は消火器や水を入れたバケツなどを用意使用中及び使用後は火の元に十分注意する
 - ・火が付いている場所から離れない
 - ・火を付けたまま持ち運んだり投げたりしない
- 容器(ボンベ、以下:ボンベ)は正しく装着してください。正しく装着されていない場合、ガス漏れ事故の原因となります。
- ガス漏れに気付いたら絶対に火を付けしないでください。爆発することがあります。
- 室内での使用は一酸化炭素中毒や酸欠の原因となりますので換気に十分注意してください。



注意

- 風の強い時は使用を避けてください。
- 紙、油など燃えやすい物の近くで使用しないでください。
- 故障の原因となりますので絶対に分解しないでください。
- 圧電点火装置の故障の原因となりますので下記の取扱いはしないでください。
 - ・輻射熱を受けやすいような至近距離での燃焼
 - ・弱火での長時間燃焼
 - ・本製品を水などで濡らす
- 本製品内部に砂利や虫(巣を作ります)などが入らぬよう保管してください。
- 強い衝撃を加えたり落としたりしないでください。故障、またはガス漏れ事故の原因となります。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。また、お子様に使用させないでください。
- 本製品は日本国内専用です。海外への持ち出しはしないでください。

各部の名称

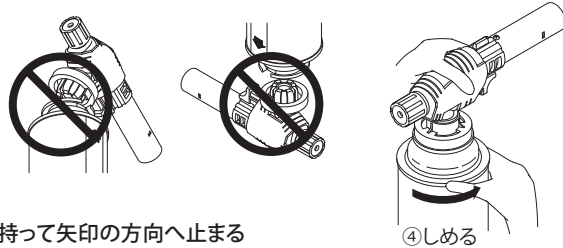


容器(ボンベ)の装着

○ロックナットのツメ(6本)が折れていたり、ガイドが外れている(無い)場合は使用しないでください。ボンベの装着不良で、ガス漏れや生ガス燃焼の原因となり危険です。

- ①ガス調節ツマミの「OFF」を確認します。
- ②ロックナットを矢印方向に軽く止まるまで回します。
- ③ボンベを正立させ、ボンベの切込みとロックナットのガイドを合わせ、バーナーを垂直におろしロックナットを差し込みます。※差し込めない場合はロックナットを「②ゆるめる」方向に止まるまで回しているか確認してください。

- △バーナーを逆さまや傾けてボンベに装着するとツメが折れる恐れがあります。
- △ボンベを逆さまや傾けると、点火時に生ガス燃焼となり危険です。



- ④片手でバルブを、反対の手でボンベを持って矢印の方向へ止まるまで締めます。締めた後、ボンベの切込み位置を示す矢印がバーナーのガス調節ツマミ側(右図の範囲内)にあることを確認します。
- △ボンベの切り込みが矢印の範囲にない場合は使用しないでください。生ガス燃焼となり危険です。
- △バーナーを強く締めすぎると、ボンベやロックナット(ガイドやツメ等)の破損の原因となります。

※ボンベの取り外しは装着と逆の手順でおこなってください。

点火

●点火する前に周辺に引火物、可燃物が無いことを確認してください。

- ①空気調節リングの突部が上に向くように回します。
- ②ガス調節ツマミを反時計回りに回し、ガスを少し出します。
- ③ガスが出ていることを確認し、点火ボタンを押して点火します。一度で点火しない場合は続けて点火ボタンを押してください。

※火力の調節はガス調節ツマミで行ってください。

- △ボンベ装着時にガス漏れ(シューという音、ガス臭)に気付いた場合はガス調節ツマミの「OFF」を確認し、それでもガス漏れが続く場合

は点火操作をしないでください。装着不良で、やけどや火災の原因となります。

※冬季などボンベが冷えて点火しにくい時は空気調節リングを回し、空気孔を少し塞いで点火操作を行い、その後空気調節リングを戻してください。

※空気調節リングを回し空気孔を塞ぐと温度の低い赤火になります。

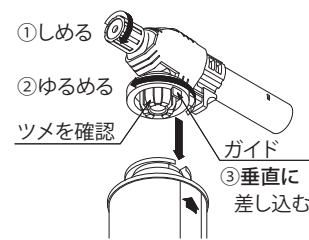
逆さ使用について

- 必ず空気孔を開けて正立燃焼(予熱)をおこなってからご使用ください。(空気孔を閉じたままの予熱では逆さ使用はできません)
- 点火後、約1分間正立燃焼をしてください。予熱後、継続的な逆さ使用が可能になります。(冬季など温度が低い場合は時間を少し多めに予熱をおこなってください。)
- 消火した場合は、改めて約1分間の予熱をおこなってからご使用ください。

警告

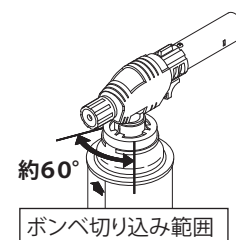
生ガスへの点火・燃焼は大変危険です

- 赤く長い炎があがり(生ガス燃焼)やけど・火災の原因となりますので下記の取り扱いを必ずお守りください。
- ・火口より生ガス(白い霧状のガス)が出た時は点火しない(一度ガスをとめて、再度点火操作を行ってください)
- ・予熱中や予熱をおこなわずに、バーナーを逆さ・上向きで使用しない
- ・燃焼中にバーナー本体やボンベを激しく振らない
- 赤く長い炎になった場合は、ボンベを外したり投げたりせず、正立の状態にしてください。しばらくすると青い正常な炎になります。



ボンベは正立(立てた状態)で

④しめる



ボンベ切り込み範囲

ボンベホルダーのツメが折れた時や変形がある時、ガス調節ツマミが曲がっている時は使用禁止

(ガス漏れ・引火注意)

使用後はバーナーと容器(ボンベ)を外して保管する事

(ガス漏れ注意)

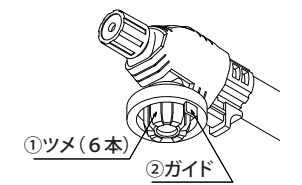
消火・容器(ボンベ)の取り外し

ガス調節ツマミを「OFF」の方向に回して消火します。完全に火が消えたことを確認してください。ボンベの取り外しは装着と逆の手順でおこなってください。

- ご使用後は製品が冷えてから必ずボンベを取り外して、ボンベにキャップをして保管してください。装着したまま保管すると、ロックナットのツメが破損したりガスが漏れ大変危険です。

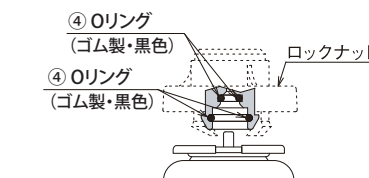
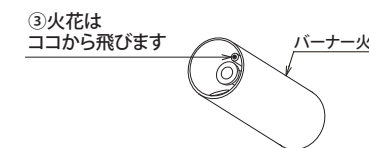
日常の点検、手入れ

- 日常の点検・手入れは必ずおこなってください。
- 製品が十分に冷えてから、ボンベを取り外した状態でおこなってください。



下記の①～④に一つでも該当する場合は使用をしないでください。思わぬ事故につながり大変危険です。

- ①ロックナットのツメ(6本)に変形、破損がある
- ②ロックナットのガイドに破損、紛失がある
- ③点火ボタンを押したときに、火口内部で火花が飛ばない
 - ※火花の確認は、火口の口元を暗くして確認してください
- ④バーナーのボンベ取付部にあるOリングに傷やゴミがついている

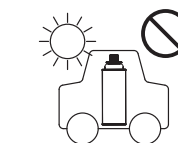
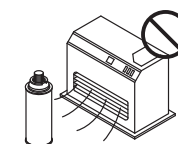


使用容器(ボンベ)取扱上の注意

- ボンベは Sakae Fuji 表示がある専用容器(ボンベ)を必ずご使用ください。それ以外のボンベを装着した場合、ガス漏れやガスが出ない等の不具合が発生します。
- ボンベに表示されている注意事項を良く読んでからご使用ください。

警告

- ボンベが高温になりますと、ボンベ内の圧力が過剰になり、爆発の原因となりますので下記の取扱いは守ってください。
- ・ボンベをストーブ(ファンヒーター)等の熱気のある場所、熱い砂の上や電磁調理器の上など熱の伝わる場所に放置しない
- ・輻射熱を受けやすいような至近距離での燃焼はしない
- ・炭等の可燃物に着火したらすぐにバーナーを消火し、ボンベを火元から離す
- ・車内や、火気・直射日光の当たる場所で保管しない
- ・ボンベを火中へ投じない
- ・ボンベはバーナーから取り外し、キャップをして風通しが良く湿気の少ない40℃以下の涼しい場所に保管する
- ガス漏れの原因となりますので下記の取扱いを守ってください。
- ・ボンベに強い衝撃を与えない
- ・著しく変形したボンベは使用しない
- ・ボンベは時々点検し、錆が発生している場合はガス漏れのないことを確認し、出来るだけ早めに使用する
- 使用済みボンベへの再充填は禁じられています。
- ボンベは完全に使い切ってから各自治体の処理方法に従って捨ててください。



お買い上げいただきました製品には万全を期していますが点検で不備な点、及び製品について不具合やご不明点があった際はご購入求めになった販売店・代理店、または弊社へご連絡ください。